



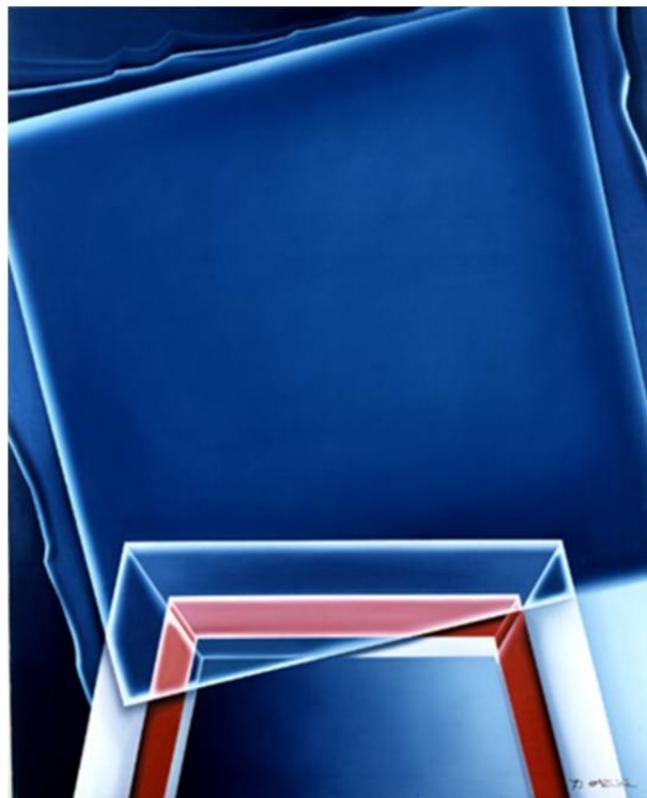
クールな空間に潜む熱い感情
 おおたけ れいぞう
大嵩 禮造 (1934~2003)

鋭い線で描かれたガラスと透明感のある青い空間から、冷たく硬質な雰囲気や緊張感が漂います。

本作は、ガラスの箱をモチーフにした抽象画「ガラスボックス・シリーズ」のひとつ。青と白の基調色、幾何学的な造形とシャープな構図、筆の跡を感じさせない表現が特徴です。作者は自身の内なる熱い感情や血を感じるために、あえて対極にある冷たさを表そうとしました。

青と白は作者の師、海老原喜之助の代名詞といえる色でもあります。海老原は南日本美術展の海外派遣美術留学制度を提案するなど、鹿児島の若い作家たちの育成に力を注ぎました。大嵩は、この留学制度第一号として1960年にパリへ渡り、当時隆盛していた抽象絵画に触れました。

青と白に添えられた一筋の赤。それは冷たさをさらに強めるための反対色であると同時に、閉じ込めきれない作者の熱のようにも思えます。



大嵩禮造《ガラスボックス' 73》1973年

1972年から描き始めたシリーズです。小企画展「ガラスに魅せられて—薩摩切子から絵画まで」で展示中。

(2月9日(日)まで)

絵画のほかにも、江戸時代に作られた薩摩切子や貴重なガラスの器なども展示しているよ!



「小・中学生の常設展示 無料の日」

毎月第3日曜日は、小・中学生は通常150円の常設展を無料でご覧になれます。
 2月16日(日)は、早春の所蔵品展と小企画展「ガラスに魅せられて」を、
 3月15日(日)は、早春の所蔵品展と小企画展「パウハウスの教育者たち」を無料で観覧できます。

早春の所蔵品展 1月21日(火)～3月15日(日)

●展示中の主な作品●

西洋・版画画



アンリ・マチス《ジャズ「馬、女曲芸師、道化師」》1947年

日本・水彩画



たて4・5cm×横6・5cm



たて9cm×横7cm

伊達孝太郎 左：《メリー・ウーリッチ嬢肖像》1917年
 右：《ルシー・ヴェムウ嬢肖像》1917年

★ **ギャラリートーク** のご案内 (作品解説会)

学芸員が作品について分かりやすく解説します。
 毎週土曜日、14:00～15:00 実施しています。

《トーク内容》

- 1月25日 早春の所蔵品展「西洋美術」
- 2月1日 小企画展「ガラスに魅せられて」
- 2月8日 早春の所蔵品展「彫刻・工芸」
- 2月15日 早春の所蔵品展「日本の美術」
- 2月22日 小企画展「パウハウスの教育者たち」
- 2月29日 早春の所蔵品展「西洋美術」
- 3月7日 小企画展「パウハウスの教育者たち」
- 3月14日 早春の所蔵品展「西洋美術」



特集：**ひな人形と小さな世界**

雛祭にちなみ重富島津家伝来のひな人形・ひな道具を紹介し、島津斉彬の娘・典姫が誕生した際に制作された江戸時代の貴重なものです。

ひな人形は京都の人形師によって、家紋の入ったひな道具は薩摩で製作されたと言われています。

あわせて、小さなサイズに表された工芸作品や、黒田清輝、海老原喜之助らによる子供をテーマにした絵画などを紹介します。小さな作品ならではのかわいらしさや繊細さ、画家たちの子供への温かいまなざしをお楽しみください。



伊達孝太郎がアメリカ・セントルイスで働いていたころ、ご令嬢の姿を小さな象牙板の上に水彩で描いた作品です。極小の世界に生き生きと少女たちの姿が写されているね。



ひな人形とひな道具